

2019（令和元）年度 国際学群  
卒業論文研究評価ルーブリックに基づいた  
学習成果の達成度評価

名 桜 大 学

2020年3月

## 趣 旨 説 明

2019（令和元）年度 国際学群卒業研究論文ルーブリックに基づいた学習成果の達成度評価は、公立大学法人名城大学第二期中期計画ならびに2019（令和元）年度計画に従い、全学共通ならびに国際学群3学士課程別の学習成果の目標の達成状況を評価する基礎資料として作成されたものです。

今後もルーブリック等による卒業研究評価を継続して実施し、その結果を活用することで、国際学群の教育カリキュラムの改善を進めるとともに、卒業研究論文の指導に携わる全ての教員の能力開発と教育プログラムに資するものにしていきたいと考えています。

2020（令和元）年3月12日

国 際 学 群 長

## 内容

1. 実施目的と方法.....	1
2. 評価結果と課題.....	3
3. 卒業研究に取り組む態度（コメント） .....	5
4. 構成（コメント） .....	6
5. 引用（コメント） .....	7
6. 批判的・論理的思考（コメント） .....	8
7. 問題解決力と独創性（コメント） .....	9
8. 論文表現（コメント） .....	10
9. プレゼンテーション（コメント） .....	11
10. 学士課程別の評価（コメント） .....	12
11. 総合評価とコメント .....	13

# 1. 実施目的と方法

国際学群における卒業時の学習目標の達成度を評価するため、2019（令和元）年度後学期「専門演習 IV」で作成された卒業研究論文を、図表 1 卒業研究評価ルーブリック（全学共通 7 項目、学士課程別各 2 項目）に基づき評価した。データ収集は、2020 年 1 月 31 日から 2 月 29 日までとし、主に Universal Passport のアンケート機能（図表 2）を用いて行った。

図表 1 卒業研究評価ルーブリック

## ①全学共通の評価項目

評価の観点	S	A	B	C	D
1 卒業研究に取り組む態度	指導教員と随時相談しながら、自主的かつ計画的に卒業研究に取り組み、期限内に課題を提出した。	指導教員と相談しながら、自主的に取り組んだ。期限内に課題を提出したが、計画性に少し問題があった。	指導教員と相談していたが、自主性・計画性が少し欠けていた。またいくつかの課題の締め切りが遅れた。	指導教員との相談も最低限で、自主性・計画性が欠けていた。また、多くの課題の締め切りが遅れて提出した。	指導教員に対する相談・連絡もほとんどなく、期限内に完成論文が提出できなかった。
2 構成	論文の構成（序論・本論・結論または緒言・方法・結果・考察・結論）が正しくできている。	論文の構成（序論・本論・結論または緒言・方法・結果・考察・結論）がほぼ正しくできている。	論文の構成（序論・本論・結論または緒言・方法・結果・考察・結論）の誤りが 1-2カ所ある。	論文の構成（序論・本論・結論または緒言・方法・結果・考察・結論）の誤りが 3カ所以上ある。	論文の構成（序論・本論・結論または緒言・方法・結果・考察・結論）が出来ていない。
3 引用	1. 文献の引用方法が正しい。 2. 文献リストが統一して作成されている。 3. 自分の文章と他人の文章との違いが明確である。	3 つのうち 2 つは出来ているが、1 つの項目の誤りが少し（1-3カ所）ある。	3 つのうち 1 つは出来ているが、2 つの項目の誤りがそれぞれ少し（1-3カ所）ある。	全ての項目において誤りがあり、その数がそれぞれ 1-5カ所ある。	全ての項目において、誤りが 6カ所以上ある。
4 批判的・論理的思考	先行研究を過不足なく収集し、論文が先行研究を踏まえている。文章に矛盾・飛躍・不足がなく、結論を論理的に導き出している。	先行研究を過不足なく収集し、論文が先行研究を踏まえている。しかし文章の論理的展開に少し無理や不足がある。	文献の収集、批判的検討のどちらかが不十分である。しかし文章の論理的展開に少し無理や不足がある。	文献の収集、批判的検討のどちらも不十分である。文章の論理的展開に少し無理や不足がある。	文献の収集、批判的検討のどちらも不十分である。文章の論理的展開に無理がある。
5 問題解決力と独創性	1. 解決可能な問題を設定し、問題を解決するための、分析方法などが妥当である。 2. 様々な手法で得られた根拠を基に、問題に対する回答を示している。 3. 発想や視点に独創性が認められる。	3 つのうち、2 つはほぼ出来ている。	3 つのうち、1 つはほぼ出来ている。	3 つともあまり出来ていない。	3 つとも出来ていない。
6 論文表現	1. わかりやすい文章で書かれている。 2. 文法、表現や形式に誤りがない。 3. 図表の用い方が適切である。	3 つのうち、2 つはほぼ出来ている。	3 つのうち、1 つはほぼ出来ている。	3 つともあまり出来ていない。	3 つとも出来ていない。
7 プレゼンテーション	効果的なプレゼンテーション技法を使用し、研究内容をわかりやすく説明している。質問や意見にも明確に回答している。	プレゼンテーション技法は標準的だが、研究内容をわかりやすく説明している。質問や意見にも明確に回答している。	研究内容の説明が少しわかりにくい。しかし質問や意見には明確に回答している。	研究内容の説明が少しわかりにくい。質問や意見に明確に答えられていない。	研究内容の説明がわかりにくく、質問や意見に答えられなかった。

## ②学士課程別の評価項目（国際文化学）

8 言語運用能力や多文化理解、地域社会・国際社会への貢献	言語運用能力や多文化理解、地域社会・国際社会への貢献のすべてに関連している	3 つのうち、2 つはほぼ出来ている。	3 つのうち、1 つはほぼ出来ている。	3 つともあまり出来ていない。	3 つとも出来ていない。
9 研究倫理	研究実施前に、指導教員へ研究倫理チェックリストを提出し、必要に応じて研究倫理審査も受けることができた。		指導教員へ研究倫理チェックリストを提出したが、必要にもかかわらず研究実施前に研究倫理審査が終わらなかった。		指導教員へ研究倫理チェックリストを提出しなかったため、研究倫理審査の必要性も判断できなかった。

## ②学士課程別の評価項目（経営情報学）

8 社会変化や科学技術の革新を数量的に分析し、評価する力	現象の定義、測定（情報収集）、分析、評価に関する一連の作業が、教員の指導がなくても一人で行えるようになった。	現象の定義、測定（情報収集）、分析、評価に関する一連の作業が教員の指導の下であれば正しくできるようになった。	現象を定義、測定（情報収集）できているが、適切な方法で分析できていなかった。	現象を定義できているが、適切な方法で測定（情報収集）できていなかった。	分析・評価したい現象に関する定義ができていなかった。
9 研究倫理	研究実施前に、指導教員へ研究倫理チェックリストを提出し、必要に応じて研究倫理審査も受けることができた。		指導教員へ研究倫理チェックリストを提出したが、必要にもかかわらず研究実施前に研究倫理審査が終わらなかった。		指導教員へ研究倫理チェックリストを提出しなかったため、研究倫理審査の必要性も判断できなかった。

② 学士課程別の評価項目（観光産業学）

8	観光に関連する事象への科学的アプローチ	観光に関連する事象に対して非常に科学的（論理的・客観的・実証的）に捉えている。	観光に関連する事象に対して十分に科学的（論理的・客観的・実証的）に捉えている。	観光に関連する事象に対して科学的（論理的・客観的・実証的）に捉えている。	観光に関連する事象に対して科学的（論理的・客観的・実証的）に一部捉えられているが、不十分である。	観光に関連する事象に対して科学的（論理的・客観的・実証的）に捉えられていない。
9	研究倫理	研究実施前に、指導教員への研究倫理チェックリストを提出し、必要に応じて研究倫理審査を受けることができた。		指導教員への研究倫理チェックリストを提出したが、必要にもかかわらず研究実施前に研究倫理審査が終わらなかった。		指導教員への研究倫理チェックリストを提出しなかったため、研究倫理審査の必要性も判断できなかった。

2020/1/9 UNIVERSAL PASSPORT EX

UNIVERSAL PASSPORT EX

ホーム | ヌーム設定 | サイトマップ | ログアウト

共通 教育 マイステップ 就職

戻る

名桜大学 卒業研究ルーブリック 学士（経営情報）2

学生番号

学生氏名

卒業研究題目

(1) 全学共通の評価項目

卒業研究に取り組みの態度

(B) 指導教員と随時相談しながら、自主的かつ計画的に卒業研究に取り組み、期限内に課題を提出した。  
 (A) 指導教員と相談しながら、自主的に取り組んだ。期限内に課題を提出したが、計画性に少し問題があった。  
 (B) 指導教員と相談していたが、自主性・計画性が少し欠けていた。またいくつかの課題の締め切りが遅れた。  
 (C) 指導教員との相談も最低限で、自主性・計画性が欠けていた。また、多くの課題の締め切りが遅れて提出した。  
 (D) 指導教員に対する相談・連絡もほとんどなく、期限内に完成論文が提出できなかった。

評価 (必須)

S  A  B  C  D

各項目に関するコメント等

構成

(B) 論文の構成（序論・本論・結論または緒言・方法・結果・考察・結論）が正しくできている。  
 (A) 論文の構成（序論・本論・結論または緒言・方法・結果・考察・結論）がほぼ正しくできている。  
 (B) 論文の構成（序論・本論・結論または緒言・方法・結果・考察・結論）の順りが1-2カ所ある。  
 (C) 論文の構成（序論・本論・結論または緒言・方法・結果・考察・結論）の順りが3カ所以上  
 (D) 論文の構成（序論・本論・結論または緒言・方法・結果・考察・結論）が出来ていない。

評価 (必須)

S  A  B  C  D

各項目に関するコメント等

引用

(B) 1. 文献の引用方法が正しい。2. 文献リストが統一して作成されている。3. 自分の文章と他人の文章との違いが明確である。  
 (A) 3つのうち2つは出来ているが、1つの項目の順りが少し（1-3カ所）ある。  
 (B) 3つのうち1つは出来ているが、2つの項目の順りがそれぞれ少し（1-3カ所）ある。  
 (C) 全ての項目において順りがあり、その数がそれぞれ1-5カ所ある。  
 (D) 全ての項目において、順りが6カ所以上ある。

評価 (必須)

S  A  B  C  D

各項目に関するコメント等

批判的・論理的思考

(B) 先行研究を過不足なく収集し、論文が先行研究を踏まえている。文章に矛盾・飛躍・不足がなく、結論を論理的に導き出している。  
 (A) 先行研究を過不足なく収集し、論文が先行研究を踏まえている。しかし文章の論理的展開に少し整理や不足がある。  
 (B) 文献の収集、批判的検討のどちらかが不十分である。しかし文章の論理的展開に少し整理や不足がある。  
 (C) 文献の収集、批判的検討のどちらも不十分である。文章の論理的展開に少し整理や不足がある。  
 (D) 文献の収集、批判的検討のどちらも不十分である。文章の論理的展開に整理がある。

評価 (必須)

S  A  B  C  D

各項目に関するコメント等

問題解決力と独創性

(B) 1. 解決可能な問題を設定し、問題を解決するための、分析方法などが妥当である。2. 様々な手法で得られた結果を基に、問題に対する回答を示している。3. 発想や視点に独創性が認められる。  
 (A) 3つのうち、2つはほぼ出来ている。  
 (B) 3つのうち、1つはほぼ出来ている。

図表 2 Universal Passport の入力画面

## 2. 評価結果と課題

2019（令和元）年度後学期「専門演習Ⅳ」履修生 313 名のうち、290 名の卒業研究論文に対する評価結果が得られた（92.65%）。

全体の評価結果は図表 3 と図表 4、学士課程別の評価結果は図表 7～図表 7 に掲載した。

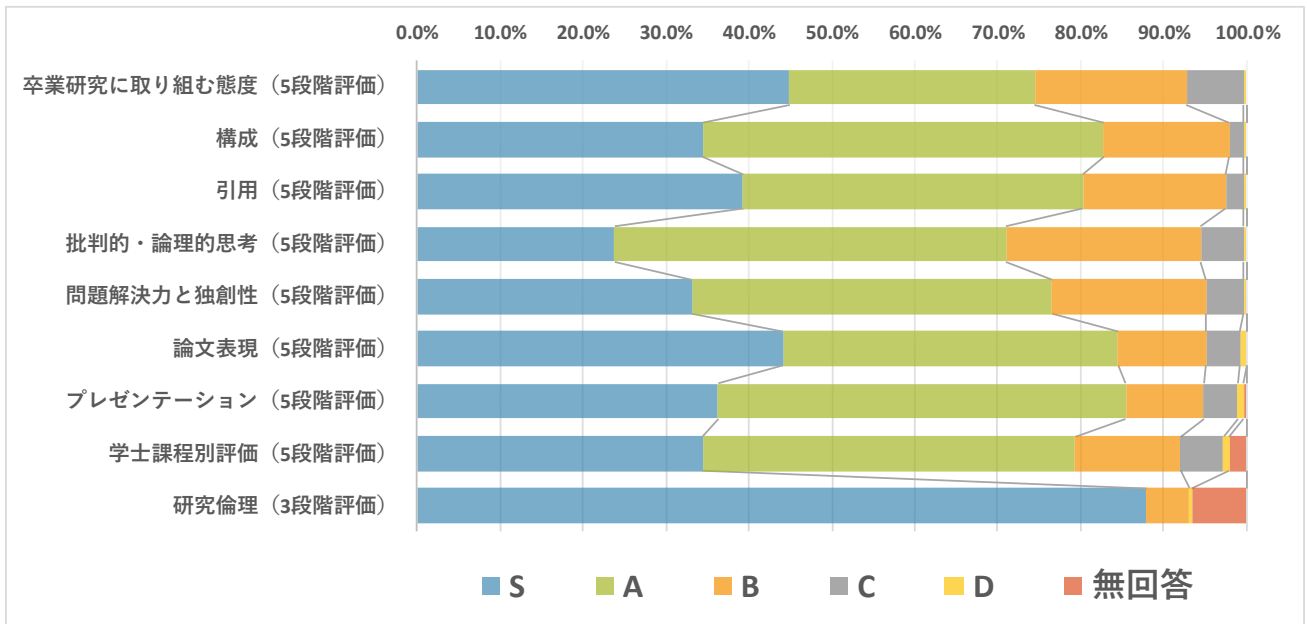
全体の評価結果では、3 段階評価の「研究倫理」（S 評価 87.9%）を除くと、各項目の S 評価の割合は 44.8%～23.8%となっており、高い順に、「卒業研究に取り組む態度」（44.8%）、「論文表現」（44.1%）、「引用」（39.3%）、「プレゼンテーション」（36.2%）、「学士課程別評価」（34.5%）、「構成」（34.5%）、「問題解決力と独創性」（33.1%）であり、S 評価の割合が最も低い項目は「批判的・論理的思考」（23.8%）であった。つまり、相対的に批判的・論理的思考力に課題をもつ卒業予定者が多いことが推測できる。

また B 評価以下の割合に着目すると「批判的・論理的思考」（B～D 評価が 29.0%）、「卒業研究に取り組む態度」（25.5%）、「問題解決力と独創性」（23.4%）の割合が高かった。「批判的・論理的思考」は S 評価も少なかったが、B 評価以下の割合の多さでも課題がある項目として指摘できる。一方、また、「問題解決力と独創性」は「批判的・論理的思考」ほどではないが、次に重要な課題として取り組むべき項目であることがわかる。一方、「卒業研究に取り組む態度」は S 評価の割合が多い項目ではあったが、B 評価以下の割合も高いことから、評価が二極化している項目であり、対象者を絞って取り組むべきであることが明らかになった。

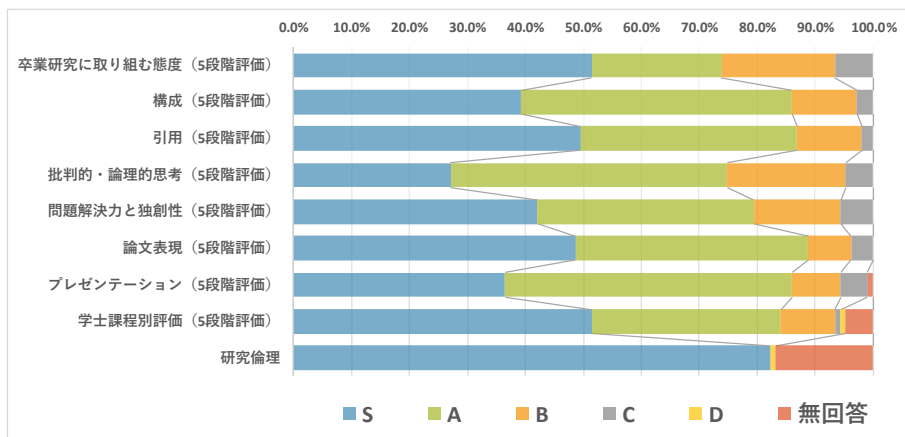
以上から、国際学群の卒業研究論文指導における 2020（令和 2）年度の課題として、①「批判的・論理的思考」の向上、②「問題解決力と独創性」の向上、③「卒業研究に取り組む態度」の改善という 3 点をあげる。なお、課題の改善策については、各演習別に検討が必要なため、本報告書を速やかに全教員に回覧した上で、各項目ごとのコメントを参考に各学系・専攻別に改善策をとりまとめていきたい。

図表 3 国際学群全体における評価結果（n=290）

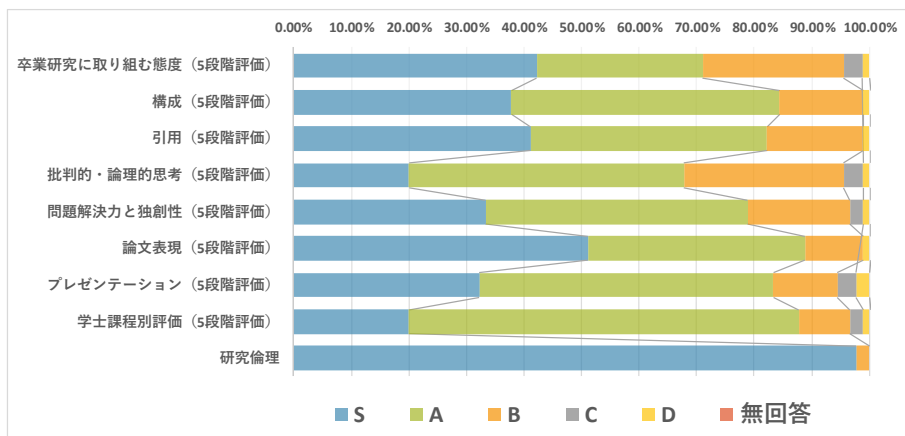
	S	A	B	C	D	無回答
卒業研究に取り組む態度（5段階評価）	44.8%	29.7%	18.3%	6.9%	0.3%	0.0%
構成（5段階評価）	34.5%	48.3%	15.2%	1.7%	0.3%	0.0%
引用（5段階評価）	39.3%	41.0%	17.2%	2.1%	0.3%	0.0%
批判的・論理的思考（5段階評価）	23.8%	47.2%	23.5%	5.2%	0.3%	0.0%
問題解決力と独創性（5段階評価）	33.1%	43.5%	18.6%	4.5%	0.3%	0.0%
論文表現（5段階評価）	44.1%	40.3%	10.7%	4.1%	0.7%	0.0%
プレゼンテーション（5段階評価）	36.2%	49.3%	9.3%	4.1%	0.7%	0.3%
学士課程別評価（5段階評価）	34.5%	44.8%	12.8%	5.2%	0.7%	2.1%
研究倫理（3段階評価）	87.9%		5.2%		0.3%	6.6%



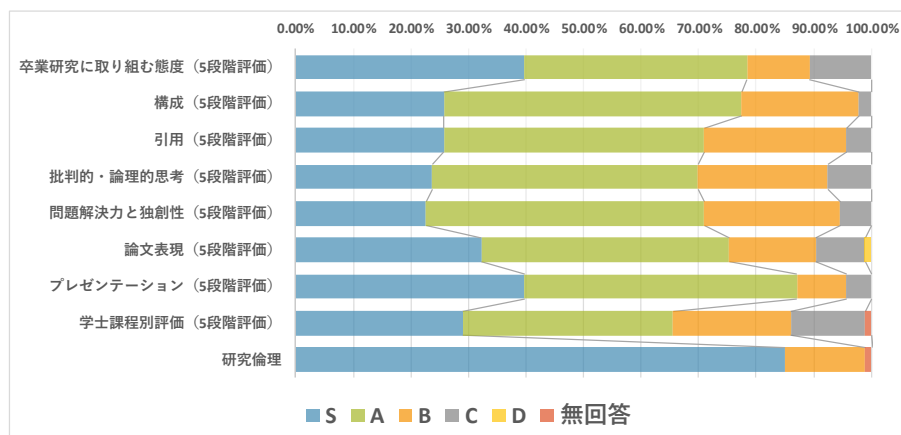
図表 4 国際学群全体における評価結果 (n=290)



図表 5 学士課程別の評価結果 (国際文化)



図表 6 学士課程別の評価結果 (経営情報)



図表 7 学士課程別の評価結果（観光産業）

以下、それぞれの小項目の評価理由が明確になるよう各評価別に指導教員のコメントを集計した。特に全体的に評価結果が思わしくなかった「卒業研究に取り組む態度」、「批判的・論理的思考力」、「問題解決力と独創性」は、各コメントを参考に、研究指導の改善策をとりまとめる必要がある。

### 3. 卒業研究に取り組む態度（コメント）

#### <S 評価のコメント>

- アドバイスを多く求め、常に積極的に取り組んだ
- アドバイスを多く求め積極的であった
- オフィスアワーを積極的に利用し、何度も相談に来た。
- ゼミ移動学生のため、1年しか指導していないが、要領よくこなしてくれた
- もっとも成長した学生といえる。
- 各段階における提出期限に前もって随時相談があり完成度を高めていった。
- 計画的に取り組む、提出期限は守った。
- 計画的に卒論作成を進め、提出期限より早く提出することができた。
- 計画的に卒論作成を進め、提出期限内に作成を完了した。
- 指導教員と適宜相談し、自主的かつ計画的に卒業研究に取り組むことができた。ほぼすべての提出物について、期限内に提出した。
- 実証分析から那覇市の課題を抽出し、分析し、定言を行っている。
- 少々コミュニケーション不足のところもあったが、こちらが話している内容はゼミ生の中でもっとも良く理解してくれていたように思う。一部締切に遅れたが問題ない。
- 常に相談しながら、自主的かつ計画的に卒業研究に取り組む、行動計画に沿って進んだ。
- 先生と相談しながら期限までに提出できた。
- 全く問題ない。
- 全く問題なかった。
- 他ゼミからの移動学生であったため、一年しか指導していない。だが、頻りに研究室に来てくれるなど積極的であった。
- 定例のゼミには必ず出席し、指導を受けながら、自主的かつ計画的に卒業研究に取り組む、期限内に卒業研究論文を提出することができた。
- 文献については自主的に採集し、まとめている
- 文献については自主的に採集し、まとめている。
- 文献に関しては、指導教員が指示したが、インタビューは学生が自主的に行った。
- 文献分析から GAF A の課題を抽出し、分析し、産業組織論 の視点とニュースメディアから EU,米国および日本のデジタル課税導入提言を行っている。
- 文献分析からシンガポールの発展の背景を抽出し、分析し、沖縄への政策提言を行っている。



- 文献分析から日本のステルス・マーケティングの課題を抽出し、分析し、行動経済学から定言を行っている。
- 毎回、演習に参加して直実に取り組んだ
- 常に積極的に取り組んだ

#### <A 評価のコメント>

- 基本的には、計画的に取り組みを進めたが、データ収集の時期が遅れたことが一因となり、当初、予定していた論文にはならなかったことが残念である。
- 4年次から卒業研究に取り組んだが計画に不十分な点があった
- フィンテックによる資産調達手段の変化と活用
- 急いでの作成となったが、落ち着いて提出できた。
- 個人的に取り組みは良かったが、ゼミ全体への積極的な取り組みがやや弱かった。
- 自己都合で計画より早く指導せざるを得なかった。
- 文献については指導教員が選出した文献を活用した。
- 文献に関しては、指導教員が指示した。

#### <B 評価のコメント>

- 最終的に卒論原稿は起源に間に合ったのだが、卒論最終発表などで提出書類の期限に間に合わなかった場合があった。
- 就職活動などあり、コミュニケーション不全であった。締切に遅れたことも事実である。
- 早めに取り組むべきだった
- 卒論を始める時期が少し遅かった
- 卒論最終発表会には間に合ったが、卒論原稿提出は計画的にできなかった。
- 地元県外での就職活動と研修等が重なったりすることも多く、少し計画性に欠けた部分があった。
- 論文の95%は完成しているが、提出期限までに間に合わない可能性がある。

#### <C 評価のコメント>

- 卒業論文の作成が期限内にできそうにない可能性が大きい。計画的な卒論への取り組みが必要である。
- 努力はしたが、結果が伴わないこともあった

## 4. 構成 (コメント)

#### <S 評価のコメント>

- できている。
- ファッション産業の現状と課題を経年調査し、時代変遷から述べている。
- フィンテック以前の資金調達法についてまとめ、初学者でも分かるように論が構成されている。
- 学術的な論文構成に従い、論理の筋がわかりやすい構成になっている。
- 構成は、抽象論から具体的な方法へとまとめられている。
- 説得力のある根拠を持って結論を導いている。
- 全く問題ない。
- 卒業論文の構成が正しくできた。
- 調査の目的、文献研究、調査方法、調査結果、結論と典型的な学術的な体裁に従っていた。
- 貧困の定義を明確にした上で、分析を行っている。
- 問題ない
- 問題ない。
- 問題なし
- 用語の定義、ソーシャルキャピタルの考え方を踏まえ、海外のウチナーンチュネットワークを分析している。
- 用語の定義、行動経済学の考え方と欧米の法規制を踏まえ、課題をと定言を行っている。
- 用語の定義、産業組織論の考え方と欧米の法規制を踏まえ、課題をと定言を行っている。
- 用語の定義、産業組織論の考え方と日本の貧困の課題と定言を行っている。
- 用語の定義、産業連関表の考え方に基づいて長崎県の産業の課題と地域活性化に向けての松浦市への提言を行っている。
- 用語の定義、産業連関表の考え方を踏まえ、課題をと定言を行っている。
- 用語の定義、島嶼の考え方に基づいて島嶼地域の課題と創生に向けて開発モデルを述べた。
- 論文の構成はほぼ正しくできている。

- 論理の展開はわかりやすく、学術的な体裁に依っていた。
- 論理の展開はわかりやすく、特に問題はない。

#### <A 評価のコメント>

- 研究途中で結論が変化したがその都度問題提起を変えることができた。
- 構成もシンプルにできた
- 執筆している内二、論の構成が変わることは問題ないが、サブタイトルに付した『学生との対話』への言及が少し少ない。『学生との対話』の考察からはじめても良かったかもしれない。
- 実証的なデータが少ないために、やや方法、考察は弱くなっている。
- 初めに立てた仮設にそって論を進めることができた。
- 序論と結論が対応するように心がけた。
- 大体思い道理となった。
- 調査の目的を達成するための文献調査はやや不足しているが、論理の展開は筋が整っている。
- 無理なくまとめているが、少々物足りない。
- 余りに盛り沢山の内容を組み込みすぎ、構成に難渋していたが、何とかまとめている。
- 論理の構成には問題はないが、文献研究の提示にやややや整合性がない部分があった。
- 論理展開の点で、書いているうちに当初の予定を変更していった点が多く、「熟れていない」ところがある。

#### <B 評価のコメント>

- 構成に関して少し不十分な点があったが全体的にまとまっていた
- 論理の展開は良いが、引用が多いので独自の考えがあまり明確でない。

### 5. 引用 (コメント)

#### <S 評価のコメント>

- できている。
- 3つの条件をすべて満たしている。
- APA スタイルに従い、正しく執筆することができた。
- APA スタイルに従い、正しく文献の引用を行った。
- きちんと学術的な書き方に依っている。
- 引用が正しく行われている
- 引用が正しく行われている。
- 引用が正しく行われている。|
- 引用の仕方や内容は正しくできた。
- 引用の方法を把握し、作成することができた
- 引用は正しく行っている。
- 引用は正しく行われている。
- 引用方法はAPAに依り、正しく行った。
- 可能な限りの先行研究にあたっている。
- 指導教員のコメントに依り、きちんと推敲できた。引用方法に問題はない。
- 主張ははっきりしており、他人の意見との区別もできている。
- 情報システムズ専攻で指定した方式に依り、正確に引用している。
- 正しい順番で文献を表示できた。
- 地方と地域の相違、地産地消と地消地産、漏れバケツ理論などの引用は正しく行われている。
- 文献の引用用法はAPA書式に依り、正しく行っていた。
- 問題ない。

#### <A 評価のコメント>

- 引用は正しく行われていたが、出典方法については指導を行った。
- 引用方法はコメントに依り、修正している。
- 確認しながら付け加えることができた。
- 大体できているはずである。

- 訂正中
- 文献リストの書き方に誤りがある。
- 問題ないが、データベースを超えたところでのデータの収集も必要だったかと思う。

#### <B 評価のコメント>

- 誤字や脱字が目立ったので、落ち着いて文章作成をする必要がある。
- 文献の引用法および文献リストが不統一である。

### 6. 批判的・論理的思考（コメント）

#### <S 評価のコメント>

- 先行研究があまりない中で努力し、収集した。
- そこまで多くはない先行研究の中で、どのように自説の客観性を維持するかが課題であったが、できている。
- ファッション産業の現状を文献研究からまとめ、さらに IT プラットフォーム産業と比較している。さらに経済産業省の政策との比較から今後の課題と解決策を提言している。
- 一部のテーマで先行研究不足の箇所はあるが、仕方ないところである。
- 英語文献も多く読み込んだ
- 沖縄県庁でのインターンシップを踏まえ、現状を意識しながら解決策を提言している。
- 行動経済学の知見から課題点を抽出している。実証研究には至らなかったが学部学生の域は超えている。
- 産業組織論と私的独占禁止法および最新の新聞報道に基づいて分析を行っている。
- 産業連関の結果に関しては不十分な点は否めないが、学部学生の域を超えている。
- 産業連関分析によるデータから長崎市松浦市の課題を的確に指摘している。また、今後の産業政策として特化係数等から将来の成長産業の誘致等を提言している。
- 成功事例から沖永良部島の地方創生を試みている。ただし、文献研究のため課題としては販路先が述べられていないため、具体性に欠ける。
- 先行研究に基づき無理のない論理の展開とまとめ方であった。
- 先行研究を収集し、論文の問題点を指摘し、研究目的を設定、方法、結果、考察まで論理的に導き出している。
- 先行文献の批判的読解、課題抽出、そして解決策の提案がなされている。
- 問題ない。
- 問題ないが、少々主観的に先行研究をまとめがちなところがある。

#### <A 評価のコメント>

- ソーシャルキャピタルのダークサイドをどのように克服したかを沖縄県民の特性(チャンプ精神等)で説明しているが、感情的な表現が見られるなど科学的文章としての課題があった。
- 機械翻訳について先行研究の検証と、実際の期間翻訳の訳事例、プロの通約者へのインタビューなどの手法は興味深い視点で検証がなされている。文献の引用に頼り、自己の見解がほとんどだったので、批判的は読み方の工夫が必要である。
- 少し先行研究の数が足りない。
- 先行研究や言語教授理論を豊富に用いている点は評価できるが、「直接法」をコミュニケーション中心の教授法、「文法訳読式」を効果的と考える点はやや無理がある。
- 先行研究をふまえ、テーマを設定し、文章を構成した
- 先行研究を過不足なく収集し、論文が先行研究を踏まえていが、論理的展開にやや課題がある。
- 卒論の内容が興味の部分だけで執筆しているので研究の問いが明確でない面がある。研究の問いを中心に展開する必要がある。
- 日本と中国の小学校英語教育制度の文献資料および教科書がきちんとそろっている。
- 日本の貧困改題と構図について文献研究を批判的に分析したが、十分ではない。
- 幅広く文献を活用している
- 文献研究からシンガポールの社会システムを抽出しているが、システムが沖縄に適用可能性の根拠については述べられていない。
- 様々な角度から問題にアプローチができた。
- 様々な先行研究を用いて検証しているが、対象がデンマークと日本に限られているのでさらに広い角度から「幸福度」を検証できればさらに良かった。
- 論法が「結論先にありき」の箇所が多いところが難点であったが、問題ない。
- 論理展開に関して少し不十分な点があった。

### <B 評価のコメント>

- もう少し多くの文献にあたっただけのほうが良かった。
- 一つ二つの先行研究に、大きくよりすぎている。自身のオリジナルな部分が見えにくくなっている。
- 先行研究の収集はもう少しできたはずである
- 他にも書籍の先行研究があったが実際に使用した文献論文に偏ってしまった。
- 同じ著者の文献ばかりを蒐集してしまった。
- 文献調査のみで実際のデータ収集ができなかったためにやや先行研究に依存しすぎな面がある。

### <C 評価のコメント>

- 文献をもっと収集すべきだった

## 7. 問題解決力と独創性（コメント）

### <S 評価のコメント>

- 一定程度の独創性のある論文を仕上げた。
- シンガポールの人材育成策と沖縄県の事例を比較し、沖縄県の人材育成策の課題を指摘している。
- すべて出来ている。
- すべて問題ない。
- 意義はある研究であり、それが自身の将来＝日本語教師にも関わったもので、優れている。
- 課題の定性的に文献からの課題について解決可能な定言を行っている。
- 機械翻訳の長所と課題について自分なりの結論を出せたのは良い。
- 研究進める中で出てきた問題を特定し、解決方法や探り、解決するようにしていた。
- 資金調達方法を比較表にまとめ、それぞれの特徴と課題を述べている。最後にリブラ円の提案を行っている。
- 塾と学校の問題点、英語授業の問題点、英語教育に求められているニーズなどに独自の収集データで解決策を探った点は高い評価ができる。
- 先行研究の少ない分野に積極的に取り組んだ
- 想は成功事例を踏まえ、地元資源に投射している点は評価できる。地方創生の中で埋没している島嶼地域の地方創生を地域資源(鹿の子伊勢エビや夜光貝)を活かして戦略を提案している。
- 題の手定量的設定および課題について解決可能な論理的解を出している。ミクロ的産業政策には至っていないのが課題である。
- 定性的課題を文献から見出し、解決可能な定言を行っている。
- 定量的課題だけでなく文献から見出し、指導教員の指示に従って松浦市の課題を成功事例から述べた。
- 日本のファッション産業の現状と課題を踏まえ、海外や国内の事例、IT化の現状を踏まえて解決可能な解決策を経済産業省の政策の中から述べている。
- 問題ない。
- 優れている。
- 様々な分析を基に結論を導いている
- 論理に、主観の入り込むことがあるが、問題ないレベルである。

### <A 評価のコメント>

- 3の「発想や視点に独創性が認められる」については課題が残る。
- ALTとの効果的なTTについて焦点化して、問題点や必要な文献、データは明確で適切に引用、分析されている
- インタビュー結果を用いて先行研究を検証していた点は評価できるか、多角的な種類のデータ収集と分析ができればさらに良かった。
- デンマークの「幸福度」に関する事例から日本への示唆を行った点は評価できる。実際にデータを集めて、検証ができると独自性がでたと考える。
- 解決可能なテーマ設定にし、問題提起と結論を一致させることができたが、少し証拠にかけている点が反省中
- 解決可能な問題を作り上げることができた。
- 新しい方法論を試みたと評価できる
- 定性的課題を文献から見出し、解決可能な定言を行っているが、チャンプ精神、イチャリバチョーデーなどの用語については感情的な定義で、訂正性に欠ける箇所がある
- 定性的課題を文献から見出し、指導教員の指示に従って貧困世帯への労働投資の概念を構築した。

- 日本と中国の小学校 4 年生の教科書を実際に比較、検証したのは評価できる。教科書分析についてももう少し深く分析を行って欲しかった。
- 発想や視点での独創性に欠けるが、問題設定、解決策は妥当であり、多面的に分析を行い、問題への回答も示している。
- 文献研究からの問題家いつ提言であるため実践にはさらに検証が必要である。
- 論の展開は独創的であったが、結論は平板なものになってしまったのが残念である。

#### <B 評価のコメント>

- もう少し努力できた
- 一般論や憶測による部分も多かった。
- 実証的なデータを収集して、先行研究を検証するとさらに良かった。
- 身近にあるテーマを選択し、議論した。特別な結論ではないと思った。
- 全体的にはまとまり、つながりがみられるが、まだ不十分な点もみられた
- 文献の執筆のみに終始している面がある。
- 文献調査しか行っていなかった。

### 8. 論文表現（コメント）

#### <S 評価のコメント>

- RESAS のスライドに強調点を加えるなどの工夫を行った。
- シンプルで深みのある文章を心掛けた。
- わかりやすい文章で書かれており、文法・表現も正しく、図表も適切である。
- 学術的文章の執筆については、ほぼ達成できており、わかりやすい文章である。
- 指導教員の指示の下、文章、図表の形式等が正しく作成できた。
- 新旧および米国等の先進事例等を自ら作成した比較対象図によってファッション業界の現状、課題を浮き彫りにして、解決策を導いている。
- 推敲する中で文章や図表、その他は適切に作成できた。
- 推敲も指示に従い行い、特に問題はない。
- 説明に口語があった。
- 丁寧に文章や図表が作成され、特に問題はない。
- 適切である。
- 適切な図表を用いている。
- 読みやすい簡潔な文章である。
- 読み手への工夫はなされている
- 分かりやすい表現方法であった。
- 文章は明瞭で読みやすい。
- 問題ない。

#### <A 評価のコメント>

- 修正を繰り返す中で、最終的には、わかりやすい文章になったが、論文作成の過程で、所々、論理的でない文章が見られた。
- Ppt に発表用と表示用に手違いがあった。
- 口語表現が散見された
- 子育て支援についてのスライドがないなど一部不備があった
- 少々引用が多い。
- 図表の使用には誤りがあった。
- 説明の際、口語表現があった。
- 多少の誤字・脱字が目立つ。
- 必要に応じて図を作成できた。
- 表現についてはある程度十分にできた
- 分かりやすい文書を用いた
- 別の観点から見るのがあまりできていなかった。
- 論文中の誤字や脱字をしつこくされた箇所が多かった。

### <B 評価のコメント>

- 現時点では大きな問題はないと考える。
- 文章の誤字、脱字、表の提示などに修正が目立った。
- 文法や、日本語での表現やアカデミックライティング力が弱く、改善が必要なところが散見された。
- 図を入れたり、データに沿って、グラフを作成した。

### <C 評価のコメント>

- 留学生の中では日本語能力は高い方であると思われるが、論文記述としては留学生であることを考慮しても少し厳しい面があった。ただし、最低限はクリアできていると考えられる

## 9. プレゼンテーション (コメント)

### <S 評価のコメント>

- できている。
- ゼミ生の中でプレゼン能力は抜き出していた。
- パワーポイントを工夫を凝らし、分かりやすい発表を心掛けた。
- ブランド名と特徴について写真を掲載し、理解を助けている。関連のある絵や写真を掲載し、理解を助けている。
- ほぼ、S評価であるが、もう少しゆっくと喋ることができれば、完璧である。
- リハーサルでは混乱していたが、本番は問題なかった。
- わかりやすくまとまっていた。
- 関連のある絵や写真を掲載し、理解を助けている
- 関連のある絵や写真を掲載し、理解を助けている。
- 関連のある資料を掲載し、理解を助けている。
- 効果的なプレゼンテーションができたと聞いている。
- 最終発表会において効果的にわかりやすく研究発表をされており、質問や意見にも明確に回答した。
- 思い通りにできた。
- 卒論最終発表会では教員が賞賛のコメントをもらったと聞いている。
- 発表はスムーズにできたと聞いている。
- 発表は指導助言では、「文献を証明した」点をほめられたので、良かったと考える。
- 発表は問題なくできたと聞いている。
- 発表を聞いていた人たちに理解されていた。質問にも適切に答えられた。
- 分かりやすいプレゼンテーションであった
- 問題ない。
- 優れている。
- 理解しやすく、論理的なプレゼンテーションを行った

### <A 評価のコメント>

- シンプルに内容をまとめた。
- パワポを駆使して明確に発表できた
- 関連のある資料を掲載し、理解を助けている。プレゼンのリハーサルを十分に行っていないため時間超過した
- 関連のある資料を掲載し、理解を助けているが、緊張のためから早口であった。
- 関連のない絵などの多様がある。
- 少し煩雑であり、もう少しまとめることが出来たように思う。
- 盛り沢山な内容であるため、まとめることに苦労していたが、最終的には達成した。
- 説明が苦手な学生であるが、今回は問題なかった。
- 早口の説明が課題である。
- 分かりやすいプレゼンテーションであった
- 分かりやすく明快ではあった

### <B 評価のコメント>

- 発表の準備不足で、良い成果が発揮できなかった。
- 育休のためプレゼンテーションは行っていない。パワーポイントは関連のある絵や写真を掲載し、理解を助けている。

- 誰が効いても分かりやすいように説明した。

<D 評価のコメント>

- 海外滞在中で最終発表ができなかった。

10. 学士課程別の評価（コメント）

学士課程（国際文化学）

S	テーマと内容は、デンマーク、幸福度の文化的違い、日本への示唆と国際文化学系に適している。
	メディアミックスへの言及。現代における「文学」の派生について論じた。興味深い指摘もある。
	英語、カナダ、国際的人材に関わる論文で国際文化学系に相応しい。
	英語、海外で活躍するアスリート、海外文化に対する適性などを扱い、学士課程の趣旨に合致している。
	研究の数も多く、また崇拜するような研究者も多い坂口安吾の相対化に挑んだ論である。自分ならもっとこうするといった意見を教員がもつということは、そのテーマ設定が多分に魅力的であったことの証拠であろう。
	源吾運用能力をしっかりとっていた。
	高評価を与えられがちな水木しげるを太守鬼、その相対化を何とか試みようとした論といえる。
	小林秀雄研究でも視点は新しく、問題ない。
	先行する論の多い対象であるが、独自の読み方も提示できた。賢治の「大人」の描き方とは、あるようでない観点といえる。
	先行研究が少ない小説家のまた、先行研究が少ないテーマについての論であったが、「沖縄文学」というなかでは、これから研究がされるべき課題である。
	多分か理解が当てはまっていない内容だと思った・。
A	日本語をどう教えるかの問題についての、一つのケーススタディであり、意義は大きい。ただ、「細かなところ」への言及に過ぎた感もある。
	論のオリジナリティの部分が弱い。だが、卒業論文としてのレベルは超えている。
	言語運用能力への貢献があるとは言えないが、他の二点には一定の貢献が見られる。
	英語、機械翻訳の日本度の可能性の2点の条件を満たしている。
	英語、地域貢献の点で条件を満たしている。
	英語、日本と中国への英語教育への貢献の2点について達成している。
B	多分か理解しかあてはまっていない内容だと思った。
	文化については扱っていない
B	米国の文化についての考察である。

学士課程（経営情報学）

S	インターンシップ実践における知見や学びと関連づけて研究を行っている
	インタビューは学生自らが行った。
	文献の収集は学生性が自ら行い。批判的読解を行えるようになった。
	文献や手法に関しては学生自らが行った。
	文献や手法に関しては学生自身がおこなった。
	文献や手法に関しては指導教員が指導したが、那覇市の産業連関分析を自ら集め、分析を行っている。

A	アンケート調査を計画したが、実施するには至らなかった。
	指導教員の下であれば、数量的に分析し、評価することができるようになった。
	文献や手法に関しては学生自ら行っているが、感情的な部分が優先され、客観性が忘却される傾向にある。
	文献や手法に関しては指導教員がアドバイスした
	文献や手法に関しては指導教員がアドバイスした。

学士課程（観光産業学）

S	テーマが的確な観光研究である
	観光研究である
	観光振興に関する研究である
	新しい観光の分野に関する研究である
A	観光振興における新しい着目点が認められる
	観光振興に関する研究である
	観光振興に関する調査研究である

11. 総合評価とコメント

学士課程（国際文化学）

- 提出した論文は、一定の独創性のあるものに仕上がっている。カトリック信者である本学生ならではの分析・考察を行っており、彼女の独自の解釈がこの論文の独創性となっているものと考えている。| 一方で、データ収集時期が遅れた点（計画性）、論文作成の過程で論理的ではない文章が散見された点（論文表現）は今後の課題として意識し、進学する大学院において課題克服をめざしてほしい。||
- 100点満点中85点の評価である。日本とアメリカの広告と映画のポスターを大量に比較し、綿密に分析できていた。執筆段階に応じて指導教員に見せ、修正し、返却し、再提出する点だけはやや欠けていた。
- 100点満点の80点の評価である。指導教員と緊密に連絡し、論文の章構成、インタビュー内容などを話し合う頻度をあげるする必要があった。
- 100点満点中70点の評価である。豊富な用例を駆使し、機械翻訳の現状と今後を分析した点は評価できるものの、「計画的な論文執筆」であったとは言い難い。
- 100点満点中75点の評価である。「草稿を指導教員に見せ、それについて指導を行い、修正の後再提出する」ことを繰り返すことがやや出来ていなかった点はあるが、難しいテーマに意欲的に取り組んだことは評価できる。
- 100点満点中85点の評価である。留学する前からテーマを設定しており、ぶれることなく、計画的に論文執筆できたことは評価できる。先行研究の分析、新たな知見を加える部分をもう少し深める必要があった。
- 100点満点中80点の評価である。英語の学習動機をテーマとして取り上げ、研究倫理に配慮したアンケート調査を行い、興味深い結論を出すことができた。「計画的な論文執筆」という点ではやや問題があった。
- 100点満点中85点の評価である。じっくり時間をかけて指導教員と相談することはできていたが、句動詞の統語的分析に関してはやや完成度が低い。
- 100点満点中85点の評価である。計画性を持って論文を執筆した点は評価できるが、アンケート結果を受けてのリスニング力向上についての先行研究をより綿密に分析し、新たな方法を提案する必要があった。
- 100点満点中85点の評価である。広島方言という先行研究が限られているテーマに積極的に取り組み、計画的に論文を執筆した。結論の部分がやや弱いと思われるのが、唯一の課題である。
- 100点満点中85点の評価である。日本語なまりが英語学習者にどのように影響するかを調査した面白い卒業論文である。中学生を初級者、大学生を中級者とみなし、相違を分析しているが、中学校現場でアンケートをとれなかったことが唯一の誤算である。
- 100点満点中90点の評価である。4年次の4月から明確なリサーチクエストを提示し、それを解決するために指導教員と議論しながら計画的に卒論執筆を行った。アンケート調査も、研究倫理チェックリストに基づいて適正に行った。
- 100点満点中90点の評価である。ネイティブアメリカンのアイデンティティーという難しいテーマに意欲的に取り組み、現状を的確に把握し、自ら解決策を提示できた。ネイティブアメリカンに対するアンケート調査も研究倫理チェックリストに基づき、適正に行った。
- 100点満点中90点の評価である。言語転移について興味深い分析を行うことができた。また、研究倫理に配慮して日本人、アメリカ人にアンケート調査を行ったことも評価できる。



- <独創性>というコメントを発表会でもうけており良かったと思います。
- ALT が導入されたが、十分な効果を得ていない状況で効果的な TT を文献を中心に検証した点は評価できます。実証データをもっと収集されて、さらに素晴らしい卒業論文に発展する可能性がある
- インタビューを実施するなど、若者の意見と年長者の意見を比較するなど、裏づけがあると良かった。分析結果を踏まえて、】どのような解決策があるのかも検討できれば、さらに良い研究となった。
- カナダでも自己の留学体験を基に、英語を使用する際に行動が変容したことをきっかけに、さまざまな角度から言語と行動を文献研究し、実際にインタビューを行って検証したことは評価できる。
- サブタイトルにも付される『日の果てから』を特化する意義を途中見失っているように見える。この問題はサブタイトルから、それを除けば解消されるものともいえるが、論法の部分でいくつか無理があるところも見られたのが残念であった。しかし、意義や結論は納得できるものであり、面白い論文であった。
- ダイヤモンドの文献は生物学なので、社会学、人類学分野でより適切な文献を引用できれば、さらに良かった。論理的文章は書いている。
- テーマは面白かったが、内容自体は深みが十分ではなかったと感じた。多くの参考文献を探してまとめるべきであった。
- テーマ設定は良いが、先行研究の引用が多すぎ、もう少し自分なりに先行研究を消化してほしかった。
- デンマークと日本を比較する中で、日本人の「幸福度」について検証した点はユニークである。文献中心になったために、独自のデータの収集と分析ができればさらに独自性の高い卒論になったと考える。
- やや主観的な論理展開と思えるところもある。熱意は伝わった。
- よく調べてはいるが先行研究のまとめという印象が強いもう少しオリジナリティがほしかった。
- レポートとは違い、2万字という時数もあってか、志半ばで終わってしまった感がある。
- 安吾の言説内から「好色」というテーマを見出してきたが、このテーマに収斂するのは少し無理があったように思う。論内で、「愛」と「好色」の内実の部分が不鮮明になるところもあった。他の用語でも、その用語の定義が曖昧なところが散見された。ただし、論の立て方、問題意識は独自性溢れるものであったし、もう少し指導できていればとこちらが後悔する内容である。
- 一定期間に論文を瀬移出し、その都度、先生からアドバイスを頂いた。
- 過去の指導教官とも連絡を取り、指導してもらった成果である。上記のような他分野の研究者である小嶋から見ると、「弱い」と感じるところもあるが、致し方ないところでもある。十分に卒業論文として成立した研究である。
- 海外で活躍するスポーツ選手の外国語能力に着目して卒論を書いた点は興味深い。最後まで考えがまとまらず、先行研究の不足や実際のインタビューデータなどが入手できなかった点は残念である。
- 外国人観光客が増加する中で、多言語訪問者との意思疎通は課題である。機械翻訳はその課題解決の有効な方法のひとつであるが、長所と課題をデータを用いて検証したのは非常に興味深い内容になっている。
- 各項目においてよい評価です
- 学校の英語授業と塾の在り方を塾講師の立場で考え、さまざまな指導法を試すなかで効果的な指導法を探った点は評価できる。
- 興味深いテーマで、手堅い内容であった。
- 計画的に取り組んだ。同性婚に反対する立場の意見についてbb級した文献を批判的に検討する部分が足りなかったが、社会的に意義のある研究となった。
- 計画的に進まず、提出遅れがあった。また、最も重要なリリックの分析が根拠に乏しい。社会的影響についても、もっと調べられたはずである。
- 結論が先に出来ていたのも、そこにデータをどう執着させるかという論法になってしまっているところはあるが、良い意味で「要領の良い」論文である。先行研究が少ない中で、どのように自説に説得力を持たすかが課題であったが、卒業論文レベルでは達成できている。
- 今回の論文作成において多大な時間を要した。しかし、計画的に進めていけば内容も質も良くなったと思いました。また、プレゼンテーションにおいてはリハーサルを行わずにプレゼンしたため、ごちない発表になってしまった。しかし、その中で、自分の興味あるテーマについて書くことができ楽しみながら作成することができた。
- 作家研究と割り切った論であり、「宮沢賢治のことを好きになることがまず大事です」という私の指導をもっとも理解してくれた論だった。対象を好きになると、好きの説明がしなくなるし、説明できていないことも自ずと理解できるようになる。おそらく、自分がどこで手を抜いたかも書き手がいちばん分っていると思う。指導教員が求める卒論の「答え」のような論であり、今後見本としたいと思っている。
- 参考文献を使い、テーマを考察できたが証拠固めをするため、アンケート調査などを行いたかった。
- 自分として納得がいくものではないが、ある程度まとまりがあるものにできたとかんがえる。
- 自分自身の生い立ちにも関係がある内容の卒論で、実際に自分で対象者にインタビューを行ったりと、かなりオリジナリティーのある卒論になったと思っている。参考文献から得た情報だけでなく、実際に体験した久々の声を聞くことで、よりリアルなものになった。
- 主観的な内容を、その圧倒的な文章力と感性の鋭さで客観を装わせた小林秀雄を対象とする際、論じる側もその文章の影響を受けやすい。その意味では、小林リトル(あるいは江藤淳ジュニア) が書いたような文章になってしまっている。だが、それもまた学生の文章力向上にはなっただろう。何より、ここまで論じる対象に没入できたことは素晴らしい学びであったと思う。
- 酒好きの酒好きによる酒好みのための論文もう少し前近代の史料を定年に扱うともっと良かった。
- 上気してきたように、参照した先行研究に強く影響されているところが多くある。だが、その中でも何とか独自性を出そうと試みたことは評価に値する。もう少し相談に来る時期を早めていればもっと良いものになったように思う。

- 水木しげるイメージの転換を図る論で、その意気やよし、という論である。キーワードとしても土人、戦記、山人と、どれをとっても卒業論文たる内容であるが、そのすべてに果敢にも挑んでいる。そのため、論がつながらない箇所も見られるが、それもまた、その意気やよし、といえる。また、オリエンタリズム的な考えに至るのが少し遅かったため、その点の先行研究への言及が不足したのが残念だった。
- 先行研究に対する批判的検討が不足。そのため、どの程度独自性のある研究なのかが示せていない。文章力をさらに磨く必要がある。
- 先行研究のまとめという印象をぬぐえないもう少しオリジナリティがあると思った。
- 先行研究のまとめといった印象をぬぐいきれない、問題意識は良い
- 全体的に活動の計画性が無く、スタートが遅れてしまったため、最終的には不十分なままだった。先生方からコメントももらいどころが足りないのか指摘を受けたので今後の糧としていきたい。
- 全体的に進めるのが遅かったため、もっと計画的に研究を進めれば、内容を深められたのではないかと思う。
- 総合評価として、テーマ設定の時点で方向性がある程度決まっていたため早めに仕上げる事ができた。また、参考文献や資料も多く、取り組みやすかった。しかし、台湾語に関して、現代に行われている具体的な教育方法・内容については文献が見つからなかったこともあり、その部分から、考察の部分に少し物足りなさを感じる。発表に関しては、発表原稿を作成し幾度か練習を行ったため特に問題なく追える事ができた。
- 卒業研究に取り組む上で指導教員の指導の元、積極的に取り組む事ができた。しかし、研究計画が不十分だった点もあったため、その点については今後、他のことに関しても経験を生かしたい。
- 卒業論文の作成過程において、まず、ご指導いただいた菅野敦志先生、及び卒業論文発表会でご指摘をいただいた上原先生、坪井先生には心より感謝しております。ありがとうございました。総合的な判断としましては、卒業論文では「答えのないような壮大な問題」をテーマに選んでしまったのではないかと自問自答し、結論が見いだせないまま、卒業論文を終えてしまうのではないかと、不完全燃焼感があります。セク性に当たり、指導教員との相談、計画性や文献調査、論理性や批判的な視点等はまだまだ不十分であり、改善が必要でした。しかし、過程においては、多くの文献と触れあうことができ、また日常的にも世界情勢や社会問題等に以前より耳を傾ける様になる事ができたため、卒業論文の作成期間はとても楽しく学びの多い期間でした。上記にも述べたとおり、「日本における多文化共生社会の可能性」というのは「答えのないような壮大な問題」だとかんがえているため、大学生生活最後に、自分への「一生の問題提起」として課し、卒業論文を終え、卒業後もこの問題と向き合っていこうと考えています。
- 卒論の執筆に関しては当初より計画を立てようと思ったが、しっかりと計画を立てることができずに執筆が遅くなってしまったことがあった。全体的にしっかりと計画を立てて臨むようにすることが出来なかった点については最大の反省である。内容に関しては、ある程度まとまりのある文章にすることが出来た。参考文献の収集から各章各節の構成についてはまとまりをもって執筆できたと考える。研究発表は、プレゼンテーションによる発表であったが、緊急事態により映像での発表となったが準備時間が少なく発表内容については少し理解しにくいものとなった。またパワーポイントに関しては専門用語に関する説明が少し不足しておりまた発表内容でそれを反映することが出来なかったことが反省点である。しかし、それ以外では大まかスムーズな発表ができた。
- 卒論の内容が興味のある部分を中心に作成されているために、研究の問いや深まりがない状況になっている。まず、研究の問いを検討する必要がある。
- 地道に取り組んだ結果が出ており、良かったと思います。
- 着想は良かったが期限遅れての完成で、今少し深みが足りない。
- 提出遅れ。計画通りの人数にインタビューを実施できていない。インタビュー結果の記述方法及び分析が不十分。良いテーマだったので、計画的に取り組めばより良い論文になったはず。
- 独創性があり「良いまとめ方」だと思います。
- 内容をまとめるのに時間がかかったが、構成をシンプルに分かりやすくまとめる事ができた
- 文献が少ない中国の小学校英語教育を調査した点はユニークである。時間的なゆとりを持ち論文作成と教科書分析を行えばさらに良い卒論になったと考える。
- 本研究では、戦後中台関係について考察したが、台湾意識の形成を説明するために日本統治時代の台湾の状況や、戦時の情勢も整理する必要があったため、範囲が広がってしまい、研究全体の焦点がぼやけてしまったことが反省である。研究対象より細かく絞って研究すべきだった。

## 学士課程（経営情報学）

- 10種類あるハラスメントの中で、最近「スモークハラスメント」というものがあり、本論文においては、医学的視点や経営学的視点から検証されている。そして職場におけるスモークハラスメントの解決方法を示し、より働きやすい職場を提案している。
- 21世紀はAI化の世紀かもしれない。あらゆる分野にAIが進出し、ついに人事の分野にもAI化の波が押し寄せている。そのような状況で、AIを排除するのではなく、AIができること、できないことを人間ができること、できないことを整理し、AIの働き方について論じたのが本論文である。
- 「働きすぎ日本」と言われる一方で、長い労働時間の割に生産性が悪いと言われていた。労働時間を短くし、生産性を向上させるにはどうするべきなのかを先進地ドイツとの比較を通して明らかにした。
- インターネット等の普及の中で、あえてラジオというマスメディアのあり方に着目し研究を進めた。おもしろいテーマであった。
- インターンシップ実践における知見や学びと関連づけて研究を行っているため文献研究ではあるが説得力がある。

- シンガポールと沖縄県とを類比させ、比較研究を行い、シンガポールの成功事例を沖縄県への援用可能性について論じている点が評価の対象となった。
- テーマがしっかりと固まるまで時間がかかったが、決まるとしっかりと主観的並びに客観的な考え方を常に交差させながら、まとめあげている。
- デジタル通貨の現状と課題を踏まえ、リブラ円発行を主張した。根拠としてリブラが発行されると日本の所得の一部が海外に流出し、投資資金が使えなくなるからである。災害の多い日本でデジタル通貨は不向きではないかとの質問に対し、デジタル通貨の分散性によるリスク軽減を回答した。
- ワークライフバランス問題は女性労働問題とは別の問題であるが日本においては女性問題と直結してしまう。本論文においても女性問題や少子化問題との関連性を整理していねいに論じている。
- 概ね高く評価できる。指導を進めると完成度が高くなった。
- 概ね高く評価できるが、客観的分析・評価については教員のサポートが必要である。
- 概ね高く評価できるが、適切に少し遅れることがあった。
- 概ね評価できるが、指導のスケジュールがタイトであった。また、自己都合で最終発表ができなかった。
- 概ね評価できるが、情報・根拠が少し偏っていた。
- 概ね評価できるが、論理的思考、とくに構成で指導が必要であった。
- 県民性のパワーポイント等の資料の出典が明記されていないなどの課題がある。前世代と現役世代の比較があるが統計データはないため感情的な表現や分析不足の部分がある。
- 行動経済学の基本的文献の批判的読解を行い、質的研究から日本の広告に関する課題を指摘できた。課題としては実証研究に至らなかったことである。
- 最新のプラットフォームと経済に関する課題を産業組織論の知見に洞察、さらに EU、米国および日本のデジタル課税を比較し、提言を行った。産業政策と文化・歴史的背景にも気づきがあるが、関連性の分析には至らなかった。
- 指導に応じて段階的に内容を深め、完成度の高い研究となった。
- 自主的に取り組むのだから、問題意識の設定に時間がかかった。方向性が決まるまで慎重にやりすぎて、時間がかかりすぎている。
- 質疑応答で、地消地産ができているのかの問について地元スーパーの現状から課題を的確に述べるなど産業連関表のエッセンスを理解している。
- 主体的、計画的に研究を進めることができ、本人なりの問題設定、計画づくり、データ収集、分析、報告ができたように思われる。この1年間の成長が著しく、学習・研究活動への努力が周囲の教員からも認められたと思われる。
- 就職先での企業研究や実習を通して、現場の声を聞き問題意識として取り組んだ。当初はアパレルの現場だけの、時事的な問題にばかり目を向けていたため、先行研究についての客観的な視点からの取り組みが出来ていなかったが、話し合いを続けていく中で理解をし、完成まで取り組んだ。
- 就職先として決定している企業を研究の対象に挙げている。当初は、世間一般的な主観的な観点からのアプローチであったが、話を詰めていく中で、また、テーマ及び中間発表会などで他の教員からの指導等も受け、客観的・批判的な観点から研究を進められるようになった。
- 就職先の企業研究等を行ったことで研究テーマとして設定。少し考えが固まってしまうので、広く課題を捉えることが最初は出来ていなかった。研究を進めていく中では少しずつではあるが、出来たかと思われる。
- 少子化と併に問題となっているが高齢化問題である。高齢化に伴う問題の解決策を諸外国と比較し、特に先進地であるドイツを参考に日本における解決策をトヨタの事例を参考に検討している。
- 情報収集から結論まで客観的な根拠に基づき結論を導いた。
- 情報量や論理的思考が若干少なく、掘り下げが不十分であった。
- 精力的かつ自主的に卒業研究に取り組んだ。学外への取材（インタビュー）も計画的に実施できた。ほぼ十分な成果を上げることができたと思う。
- 積極性・計画性に欠いていた。また、問題意識が多少不足していたため、行政の報告書のような形となっている。
- 積極的自主的な行動に欠けていたため、テーマ発表会ではかなり問題行動を起こしていた。その後は他の教員からの指導も受けながらすすめていった。地域ブランドをテーマにしているため、様々な事例はサーベイできていたが自身の答えを持つにはいたっていない。
- 積極的自主的に研究を進めた。ただ、自分の問題意識の整理に時間がかかっていた。批判的な考察が多少不足していたが、自分で納得しながら進めることができていた。
- 卒業研究に取り組んだ2年間を通じて一貫して精力的に取り組んでいた。特に自費で鹿児島・熊本・千葉など県外にあるハンセン病療養施設を実際に訪問し、現地の学芸員から話をうかがうことで考究を深めた研究手法は、熱意と独創性にあふれるもので高く評価する。但し、この手法に精力を注いだ分、他の部分（特に先行研究の検討）が弱くなった側面もあることは否めない。それでも、このような研究姿勢は後進にも参照されるべきである。時の経過に伴う「忘却」に関する問題は少なくない（戦争や自然災害、社会的な大事件など）。その中でハンセン病問題に取り組むことで、これらの問題にも参考となる汎用性のある研究となった。
- 男女間の格差問題は、特に日本社会ではヒドイ状況で古くて新しい問題です。その問題を先進地スウェーデンとの比較を通して明らかにしました。
- 地元の霧島市の空き家問題について研究を進めた。市が実施している施策が本当に効果を出しているのだろうかという問題意識から出発している。もう少し自身の観点があると良かったのではないかと思います。市の施策等の紹介や解釈になると報告書の域を超えないため、その点が残す課題。

- 地元徳島県の寂びた漁村地域の問題が研究の出発点となっている。徳島県内の特色的な地域の活性化策の取り組みについて整理しまとめを行っている。
- 地方創生の中で埋没している島嶼地域の地方創生を論究している。また、成功事例を元に地域資源(鹿の子伊勢エビや夜光貝)を活かして戦略を提案している。質疑応答では「わらんちゃガイド」の効果についての確に回答した。
- 通信技術の発達に伴う働き方改革の一つにテレワークがある。本論文ではテレワークに適する適さないを区別し、適する場合の運営面での問題点を明らかにした。さらに、テレワークを進める上でのメリット、デメリットを比較しうまく活用する工夫を示した。
- 日本のファッション業界の現状と課題を端的に分析し、提言を行っている。IT プラットフォームやワンストップサービスについて自分で概念化しているため、説明が分かる。オークションの理論を加えるとさらに良くなる。プラットフォームの課題、情報漏洩の問題についても質問に答えている。
- 日本の貧困の課題として、OECD 諸国との比較から子どもの貧困率の高さや母子世帯ではワーキングプア率が高いことは述べているが、これらの課題と「労働投資」との関連性については論理構築ができていない。また、養育費の強制徴収に関する質問についても的確に回答できていないなど研究不足感否めない。
- 病気のため卒業論文作成を中断しました。
- 文献研究から産業連関表を用い、那覇市の産業構造の実証研究を行い、マクロ的課題を抽出できた。課題は、ミクロ的産業政策については時間の都合上、割愛したが、学部生レベルとしては十分な研究である。
- 問題意識が散漫し中々まとまらなかった。話をする中では理解できるようであったが、自分で進めていく中では時間もかかり提出期限に遅れることが多々あった。もう少し自信をもって取り組んでほしい。
- 留学期間中に十分な指導を受けていないが、後半完成度を高めた。
- 留学期間中に十分な指導を受けていなかったが、帰国後半年間で完成度を高めた。
- 労働現場における人手不足を解決する手段としての「外国人労働者」を活用する際にどのような点に注意しなければならないかをくわしく論じ、深めている。法改正も含めて、この問題は多岐にわたるが、本論文では経営学の人的資源管理論の中で検討している。
- 労働組合の推定組織率は、2019年6月30日現在で16.7%となり、年々下がり続けている。その中でも非正規雇用のおかれている状況は悪く、大半を占める第3次産業では、労働組合さえない状況である。そのような状況でも非正規雇用の働きやすい職場をめざし、労働組合のできることは何か、を本論文では論じている
- 論文内容については評価できるが、適宜相談せず、締切にも送れることがあった。
- 論理構成に指導を要したが最終的には評価できる内容となった。

## 学士課程（観光産業学）

- 沖縄県における外国人観光客受け入れ環境と課題について考察している論文ではあるが、特に課題についての内容が貧弱である。○○君は留学生である。留学生の場合、日曜生活での話し言葉は特に問題ないが、高級文章能力が求められている論文作成はしんどい作業である。日本語の科目（授業のコマ数または、日本語の論文指導）を増やす必要があると考える。
- オリジナルな分析で、精査すれば観光研究の学術論文になり得る
- 海外からの旅行者が増加している沖縄で、特にこれからの観光客増加が見込める韓国からの観光客を対象にやんばる地域の環境・言語の面からアプローチしている。インタビュー調査とアンケート調査を行っており、調査の方法は適切であったが、日韓の問題で2019年度後半から韓国人観光客の激減するによりインフォーマントの人数が予定通りでできなかったのが残念である。
- 観光商品としての和服についての現状を把握し分析するとともに漢服の観光商品化の可能性について考察している。先行研究と現地調査は充実している論文である。・杜さんは留学生である。留学生の場合、日曜生活での話し言葉は特に問題ないが、高級文章能力が求められている論文作成はしんどい作業である。日本語の科目（授業のコマ数または、日本語の論文指導）を増やす必要があると考える。
- 研究テーマが途中変わったため、大変だったと思うが、きちんと調査をし結果をだしている。しかし、分析結果の考察が不十分なところがあるので、修正を依頼した。
- 研究課題を明らかにするため、多様な観点から調査し、分析を行っている。ただ、集めたアンケート調査の数が少し足りないが、ご当地キャラクターを提供する側にも調査を行ったので、深く考察できたと考え。
- 個別の事情に応じた対応が必要な刊行者の団体として特別支援学校の修学旅行を事例にし、旅行先の選択や事前準備、観光をどのように行っているかを参与観察調査し、詳細に記述していることについては高く評価できる。
- 考察が少し不十分だが、沖縄県の空き家の現状について詳しく調べて調査を行っている。アンケート調査もきちんと行っている。
- 国内外の300名以上の人を対象にアンケート調査を行い、十分に客観的に分析していると考えられる。しかし、研究方法が詳しく書かれていなかったため、修正するように指導する。
- 最終的には卒論発表会を行い、課題も提出している。しかし、多くの課題の締切に遅れて提出した。調査も不十分なので、文献調査を行うよう指導した。
- 先行研究の考察はすこし不十分だが、調査内容や分析が明確である。
- 卒業研究に取り組む総合的評価としては、自主性、論文の構成、先行研究の収集等はほぼ正しくできている。特にプレゼンテーション技法はわかりやすく説明している。
- 調査した内容が少し不十分なところはあるが、研究目的を明らかにし、結論も出しているため、特に大きな問題はないと思う。
- 本卒業研究は、研究対象者の細かい調査を行い、研究目的をあきらかにし、結論も論理的に導きだしている。

- 留学から帰ってきてテーマ設定の時期も遅く、考察がまだ不十分なところがある。しかし、きちんと調査をし結果をだして卒論発表会を行った。

